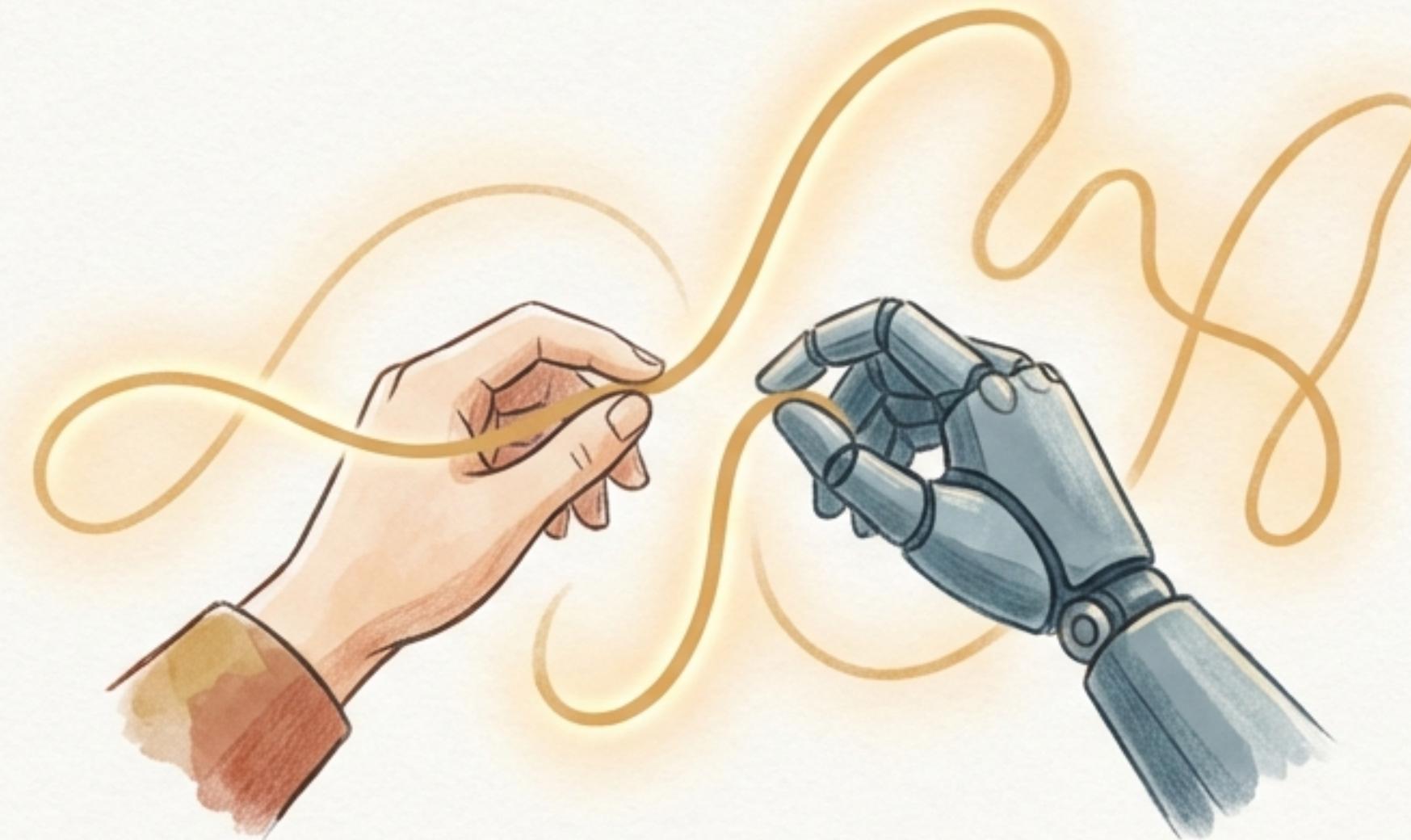


AIを、あなたの最強の相棒にする方法

知られざるカギ、『コンテキスト』の魔法を解き明かす



AIへの指示、なぜか 「しっくりこない」？

「すごいって聞くけど、返ってくる答えは意外と普通…」「もっと気の利いた答えが欲しいのに…」
そんな経験ありませんか？
その原因は、AIの能力不足ではありません。

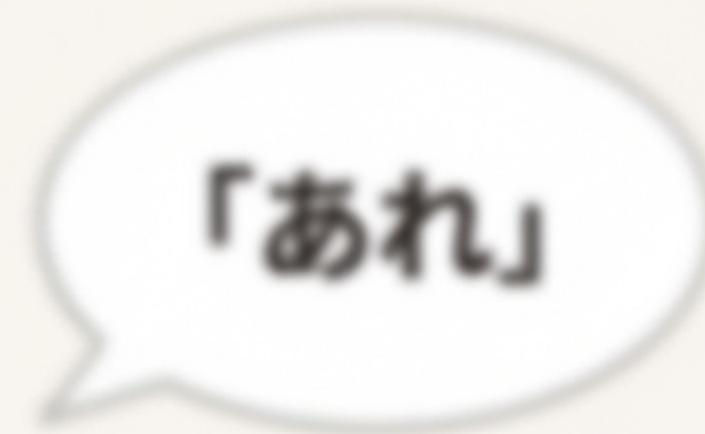


AIの正体は…「記憶をなくした、天才転校生」



AIは、世界中の膨大な知識を持つ、ものすごく頭の良い転校生のようなものです。
勉強は得意ですが、たった一つだけ、決定的に知らないことがあります。

その子が知らないこと。それは「あなたのこと」です。



AIは、あなたが誰で、今どんな状況にいて、何を求めているかを全く知りません。
だから、ただ「あれをやって」とだけ言われても、どう動けばいいか迷ってしまいます。

そこで登場するのが 『コンテキスト』です

コンテキストとは：
AIが迷わないように伝える
「背景情報」 や 「まわりの状況」 のことです。

転校生に「私は今こういうことで困っていて、
こういう理由でこれが必要なんだ」と、
親切に教えてあげるイメージです。



もしコンテキストがないと… AIは勝手に「想像」する

あなたの指示:
「犬について書いて」



「背景」を教えるだけで、答えは劇的に変わる

コンテキストなし：
「犬について書いて」



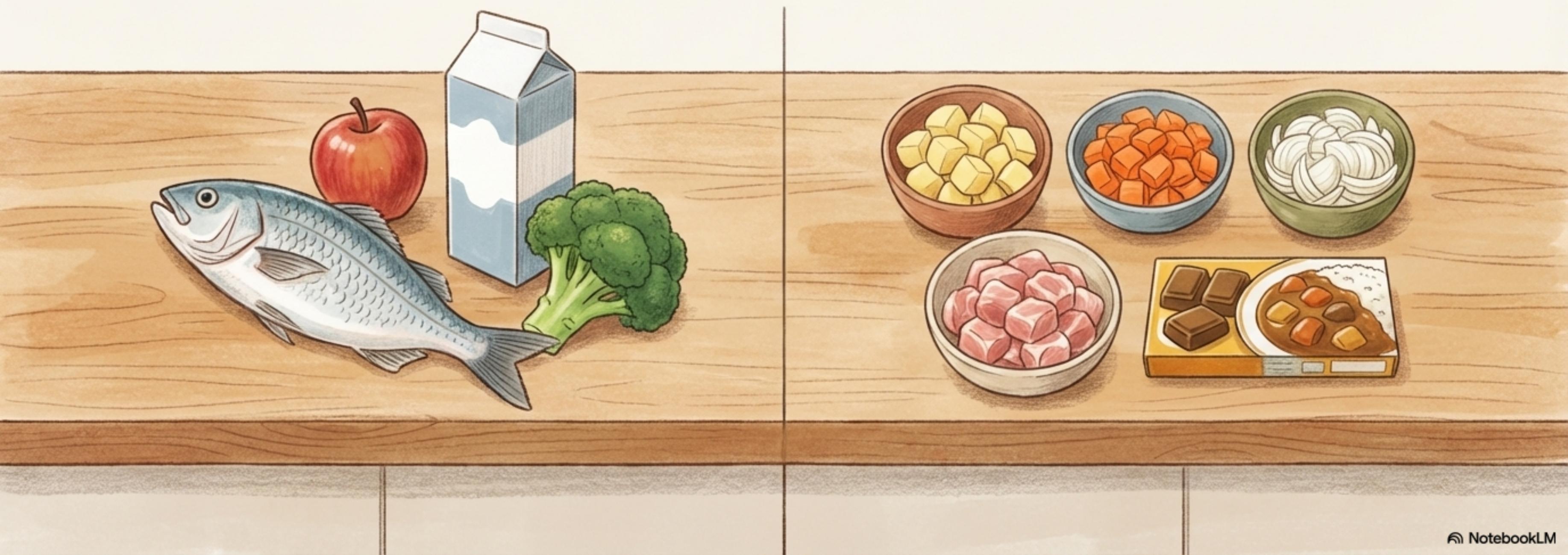
コンテキストあり：
「私は5歳の子どもです。
これから家で犬を飼いたいと思っているので、
飼いやすい犬について
教えてください」



(なるほど！5歳の子にもわかる言葉で、優しい犬の種類や、お世話の仕方をアドバイスすればいいんだ！)

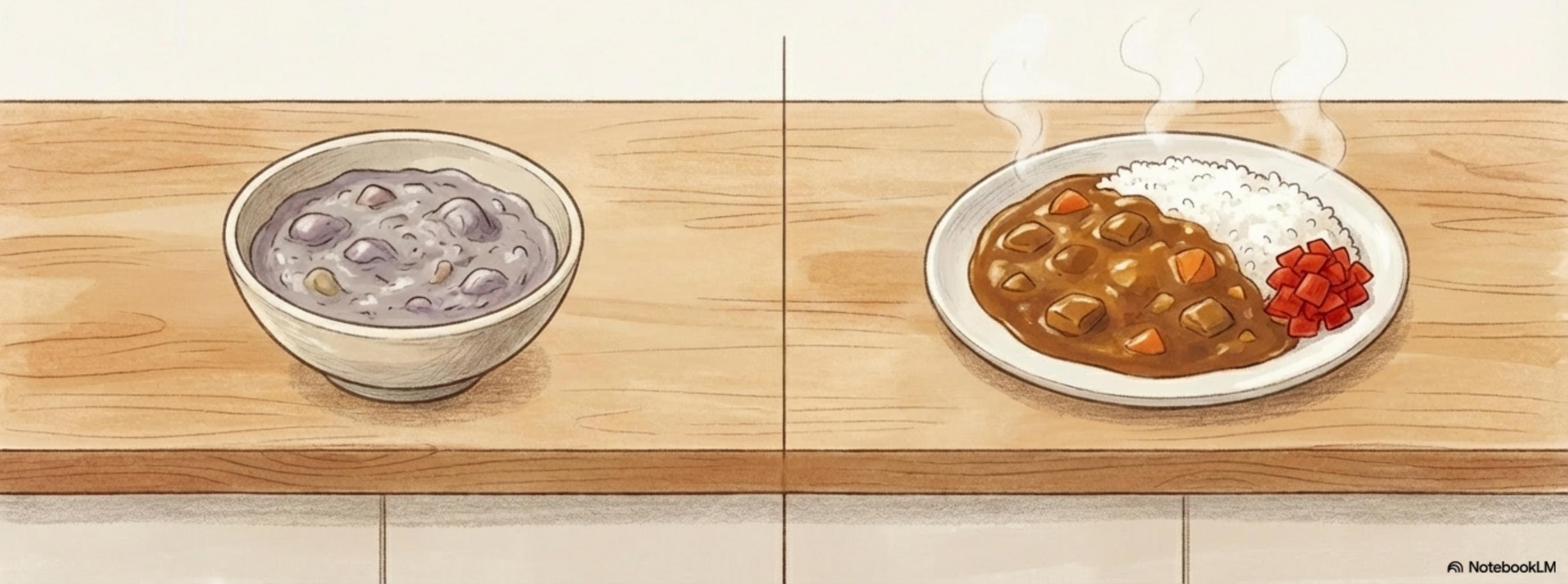
コンテキストは、美味しい料理の「正しい材料」

「料理を作って」とだけ頼むより、「このジャガイモとお肉で、辛くないカレーが食べたい」と材料や好みを伝えれば、望み通りのものが出来上がりりますよね。AIも同じです。



良い材料で、間違いのない答えを。

あなたが渡す情報（材料）が正確で具体的であるほど、AIが生み出す答え（料理）の質は高まります。間違いが少なくなり、より正確な答えが返ってくるのです。



まるで、「劇の舞台設定」のように

優秀な役者でも、いきなり「セリフを言って」と頼まれては良い演技はできません。
「場所は夜の森、あなたはお腹が空いている」といった舞台設定を伝えることで、
初めて役者は役に入り込めるのです。



「セリフを言って」



「場所は夜の森、あなたはお腹が空いている」

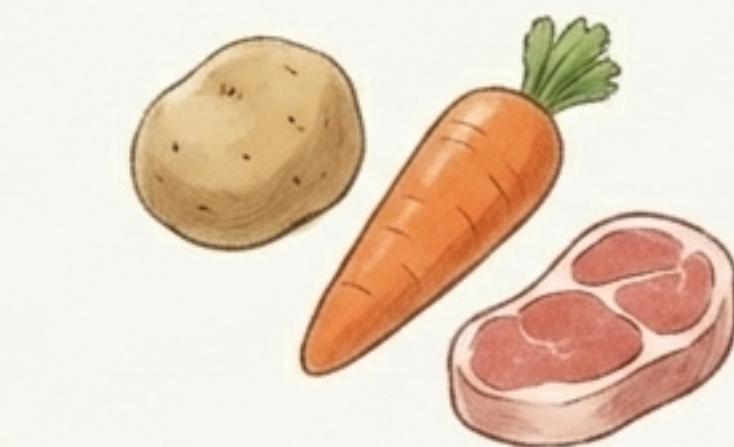
まとめ：AIが迷わないとめの「3つの道しるべ」

コンテキストとは、AIにこの3つを教えてあげることです。



あなたの状況を教える
(Who & Why)

転校生に自己紹介するように。



正しい情報を与える
(What)

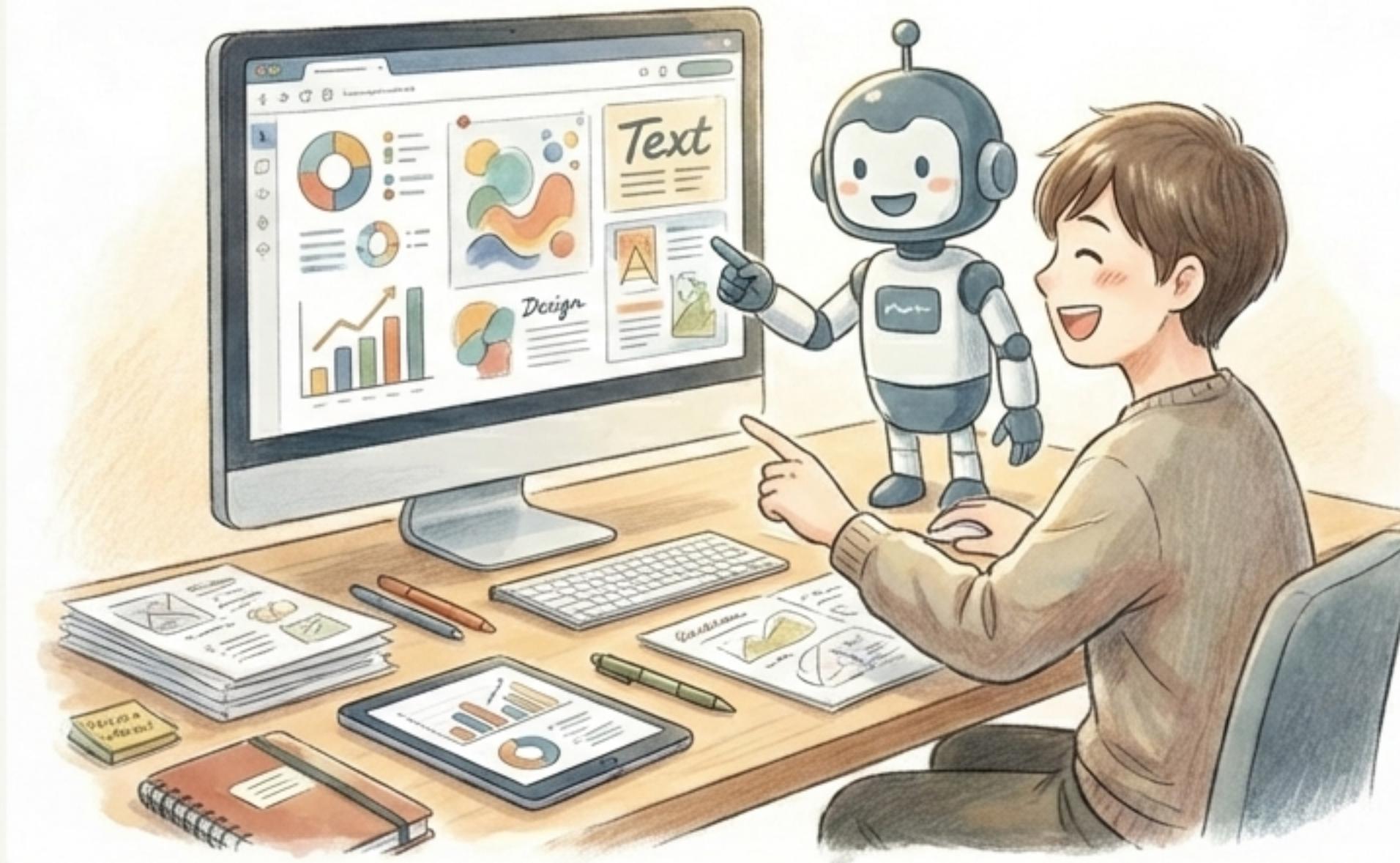
シェフに最高の材料を渡すように。



目的やゴールを示す
(Where & Goal)

役者に舞台設定を伝えるように。

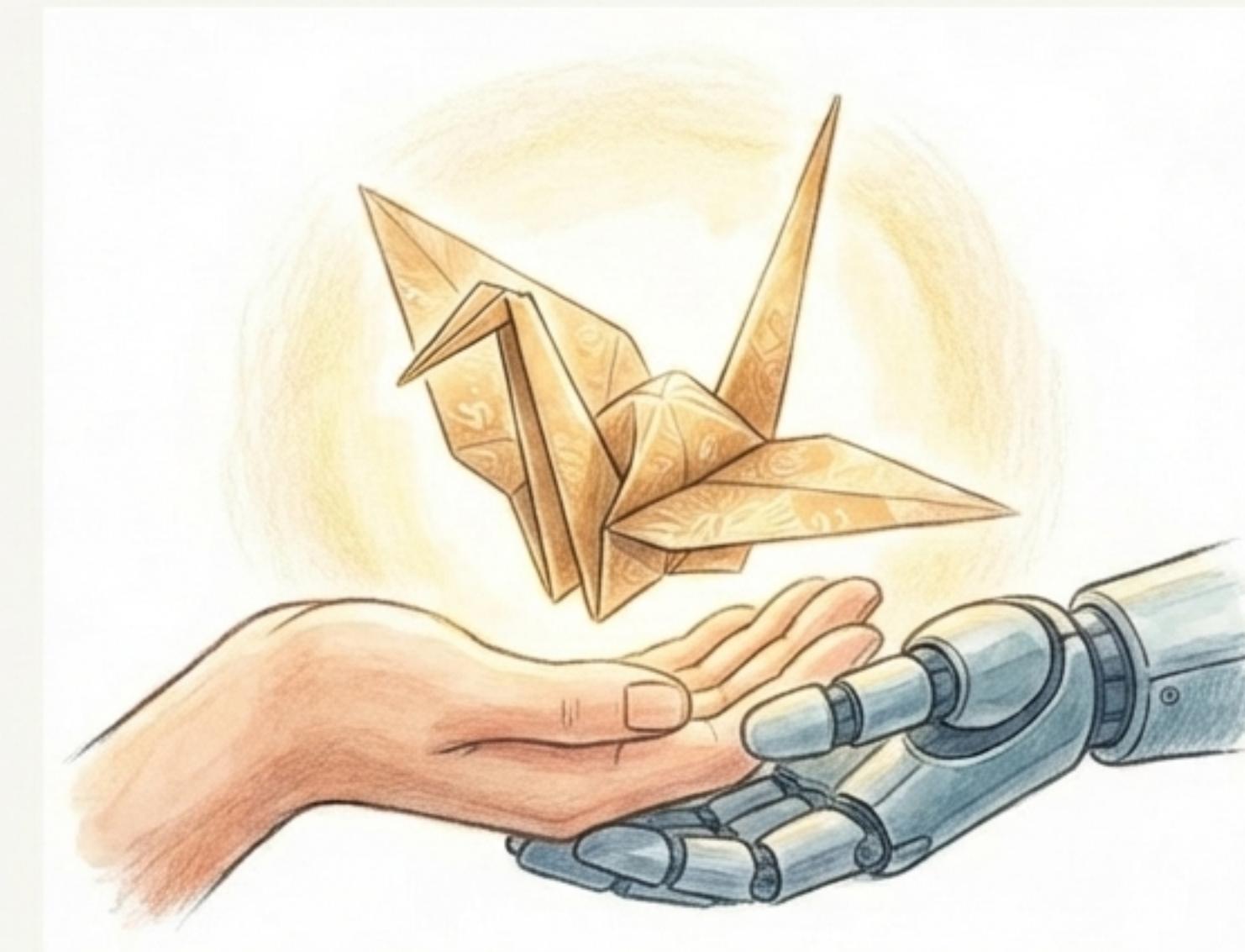
あなたのAIが、「最高の相棒」に変わる瞬間



コンテキストを伝えること。

それが、AIをあなたの思考を拡張するパートナーに変える、一番の近道です。

さあ、あなたの相棒と冒険に出よう。



正しい対話が、未来を創る。